（別紙様式）

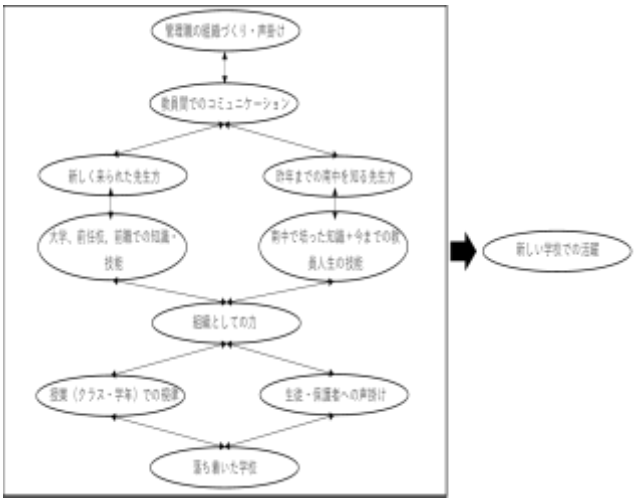
令和５年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

三浦市立南下浦中学校

研究テーマ：落ち着いた学校づくりの分析と探究

１　実践の目的

過去の内容に目を向けて様々なことを分析・探究し、そこから各教員が、どこに異動しても新しい学校で、また未来の南中で起こりうる問題に対して、冷静に対応し、解決に導いていくための組織運営力を高めていくことが目的である。南下浦中学校が、ここ数年で落ち着いてきたことを分析するためにこの研究テーマを設定した。



２　実践の内容

イメージとしては教員が調査員として各授業や各クラス等のデータを、アンケートを使って収集する。このデータから南下浦中学校の良さを探究する。

（１）授業見学（年２回）

・授業規律、声掛けや問いかけをメインにみる。授業を見た際は授業をみての見学用紙を記入する。授業始めの挨拶から終わりの挨拶まで見学する。

（２）朝活・給食・帰活（年２回、他学年で１回ずつ）

・当該学年とは違う学年で、１日そのクラスで生活する。給食もそのクラスで食べ、クラスの雰囲気を感じる。

（３）部活動の体験入部（年１回）

・技術面の指導ではなく、顧問と生徒の関わり方を身近に感じてもらう。生徒との関係作りにもつながるため、無理のない範囲で生徒と一緒に活動してもらい、顧問の立場で部活の運営の仕方を確認することも可とする。勤務時間をこえての活動が多いため、夏休み中の参加でも構わない。

～アンケート内容～

１、生徒にとって効果的な声掛け・教員の立ち振る舞いや雰囲気づくりはどのようなものでしたか。その時の状況や生徒の様子など詳しくお書きください。

２、規律面で参考になったのはどのようなことですか。詳しくお書きください。

３、今回の参観を通して、自分自身の授業、学級・部活経営に活かしたいと思ったことを１つだけお書きください。（たくさんある場合は書けなかったことを、その先生に恥ずかしがらず直接伝えてください。教員間のコミュニケーションが広がります。）

※このアンケートを１人計５枚書くことになる。

３　実践の成果

（１）教師の変容

・自身の考えている強みという部分とは別に、周りから見た強みという部分を新たに発見することができている教員が多くいて、教員の自信に繋がった。
・他者から学ぶべきところがわかり、自身の課題解決に繋げることができるようになった。
・生徒とのコミュニケーションの幅が増した。
・教科では見えづらい生徒の良さが部活動や他学年の学活（朝活、給食、帰活）の中から見ることができ、あまり関わることのない保護者の方とのコミュニケーションも増えた。
・職員間のコミュニケーションが増え、連携して指導に取り組める体制ができてきている。
・職員室の雰囲気がとてもよくなった。

（２）生徒の変容

・学年が違い、普段からあまり関わることのない教員とのコミュニケーションがとても多くなった。
・休み時間に当該学年とは違う教員と会話をする生徒が増えたように感じている。
・部活体験では、教員に生徒が教えてあげる場面などがあり、生徒から積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られた。
・たくさんの教員の関りが増えたことで安心して学校生活をおくれる生徒が増えたように感じる。

（３）実践を終えて

・教員一人ひとりがコミュニケーションの大切さを再認識した。生徒・保護者とのコミュニケーションはもちろんのこと、教員間のコミュニケーションがとても大事だということに気が付いた。現段階では、職員室の雰囲気がよくなったことが落ち着いた学校づくりには必須なのだと実感できた。

４　今後の展開

（１）今後の研究の方向性

３の（３）で書いたことに加えて、今後も新たな発見を教員間で共有しあうコミュニケーションを大切にしていきたい。年度ごとに教員は入れ替わるため、三浦市全体にこの実践を普及していく教員が増えてほしいと思う。

また、次年度は今年度気付いた教員間のコミュニケーションを意識しながら、「個別最適な学び」を軸に教員間の協議をしていきたいと考えている。

（２）残された課題への対応

年度が変わるごとに学校の雰囲気は大きくかわるため、今年度見えてきたことが、今回のテーマのすべてではないと感じている。教員一人ひとりがそのことを意識し、次年度も新たな発見をしていかなければならない。また新しく南下浦中学校に着任される先生方からも前任校で取り組んできたことを聞き、積極的に取り入れていく。